



私はこう
考
える

「親支援」
とは言う
けれど

命・絆・未来

松崎恭子

～子育てひろばの現場から～

命の誕生

赤ちゃんが誕生した時、この命が皆に愛されながら末永く健やかに育つてほしいと願うと思う。命を育む最も大切な乳児期は育ちの出発点であり、親子関係の基盤をつくる大切な時期である。

私が勤務する子育てひろばは、約68平方メートルの一部屋であるが、開設七年目を迎えて延べ十四万人強の利用がある。子どもが生まれた幸せもつかの間、母親一人が赤ちゃんの世話を奮闘していることが多く、初めての一対一の育児に疲れ果て、保健師

さんから紹介された地域の子育てひろばに○・一歳児親子が訪ねてくる。ひろばに来た赤ちゃんを大学生が迎えて抱っこし「かわいい！」と叫んだことでわれに返り、「私の赤ちゃん、かわいいんですね」とバランスを取り戻し、「息が抜けた。今日ここへ来てよかったです」と感想をもらす母親も多い。

子育ての悩みのアンテナ

現代の育児は、近隣との関係が希薄で頼れる人あまりなく、夫は仕事で帰宅が遅く、母親の子育ての状況を理解してくれる身近な存在がないため「母

子カプセル」と呼ばれる。地域からも家族からも孤立した母親たちの育児負担は、働いている親よりも強い様子が、ひろばの母親の声からもわかる。

母子カプセルが二十四時間無期限で続く場合、親の心理的な圧迫感はかなり強く、「子どもはかわいいが、この子が生まれてこなければよかつたと思う時がある（一ヶ月児）」。「いくらあやしても全然泣きやまず、ついに保健師さんに電話してしまった（三ヶ月児）」と助けを求めるなどを恐縮する母親もいる。「まだこの月齢なのに二回も高熱を出させてしまい母親のせいだと思われる。こんなに足が冷えていていいのか、誰にも聞けなかつた（五ヶ月児）」「現在のこの月齢で発達障害がわかると本に書いてあつた。幾つも当てはまる項目があるが、発達に異常がないか教えてほしい（六ヶ月児）」「いつもこの子と二人きりなのでこの食事量でいいのかわからぬ。先月から百グラムしか体重が増えていないがどうしたらよいか（十ヶ月児）」など、乳児期という育ちの出発点で強い不安を抱えながらも誰にも相談できずにい

る母親が多いことがうかがえる。
つながりをつくり出す

子育てひろばに来て、つかの間でも子どもが遊びだすと、親はほっとできる。限られた空間の中で、自分以外の誰かが自分の子を一緒に見ていてくれるという安心感も、スタート間もない親には大切である。何かあつても誰かがそばにいてくれる。そばにいる誰かと話してみたら肩の力が抜けた。毎日通うひろばの中で、顔なじみの親子ができるべく、声を掛け合い、相手を気遣うようになる。小さな気付きを伝え合い、成長や喜びを分かち合う。

「お教室に通えば個人の能力は身に付くが、せつかく一緒に来ているお友達との関係は、ひろばのようには深まらない」。毎月実施している避難訓練後には、「ここに来れば大丈夫」ということがわかつた。いつもこの子と二人きりで、災害が起こつたらどうしようと不安でたまらなかつた」。抱つこのし過ぎで手首が腱鞘炎という親に対し、「私も離乳食は絶対に手首

りと決めていたが、ある時、「頑張らなくていいんだと思えるようになつて楽になつた」等々、先輩ママから直接耳にする体験談やアドバイスは、後輩ママの緊張を解きほぐす。子育ての出発点を支える子育てひろばには、親子同士のエンパワーメント、引き出し合う力、支え合いの姿が日々幾つもある。

支援者の専門性

子育てひろばには毎日多種多様な相談が寄せられる。専門性が必要な質問も相当数あるが、保育を基盤に保健・心理・栄養・福祉などの支援者が相互の専門性を活かしながら多面的多角的にチームでかかわる。親子のありのままを受けとめながら、指導や正論でなくあくまでも親子自身が育児スタイルや方法、ペースを選択できるようにアプローチをしていく。

医師に妊娠中から異常を宣告され、出産後も子育てに不安が続く親、産後の体調が思わしくなかつたり、子どもの様子が気掛かりで外出もままならず多くの時間を家庭で過ごしている親子も多い。

親の悩みや不安点をじっくり聴くことで明確にし、家庭で行つていくことと、専門機関と連携しながら協力体制をつくつてのばしていくことを整理付け、困った時はいつでも子育てひろばに来てくださいというメッセージを発信しながら長期的な関係性をつくっていく家族支援の大切さも痛切に感じている。

引き出し合う関係性

わらべうたや手遊びなどを親子に伝えるだけではなく、親子で歌い、動く。その上で、親自身が人に歌つてもらう心地よさを感じてもらつたり、身体にふれ合い語りかける人とのかかわりを親同士で体験してもらいながら、立場を変え、子どもの視点に立て、してほしいことを想像してもらつていてる。

子どもと家族の育ちを支える社会の基盤づくりにおいて父親の存在は不可欠である。社会的視野をもつ父親が地域の中にネットワークを広げ家庭や社会の中で絆を深めていくことが急務であるように思う。

（NPO昭和 昭和女子大学）